食を楽しむ1年になりますように！

　先日ネットのニュースで「かさ増し肉減らし、物価高に工夫も限界　学校給食カロリー確保に悩む日々」という見出しに目を惹かれました。

物価の高騰が学校給食にも影響を及ぼしていて、給食業者が相次いで倒産している、予算内でおさめるためにやむなく肉や魚の量を減らしてしのぐ学校もある、というような内容でした。

私が育った地域は小・中学校とも給食がありました。

献立や量について文句を言ったりしながらも、班ごとに机を合わせて食べる給食の時間は楽しいものでした。

**■学校給食法について**

昭和29年に制定された「学校給食法」によって目標や経費等が明文化され、学校給食に明確な法的根拠が与えられました。

平成21年の改正では、学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達に資するだけでなく、その目的に「学校における食育の推進を図ること」と明記されました。

学校給食を通して、「食事の重要性」「 心身の健康」「 食品を選択する能力」「感謝の心」「 社会性」「 食文化への理解」などを育むことを目標としています。

■**自治体によって取り組みはさまざま**

現在の学校給食では、お弁当持参やランチ給食を注文などの選択制をとっている地域や、逆に行政による完全給食実施を選挙の公約に掲げている地域もあります。

選択制にしても完全給食にしても賛否両論あり、いずれにしても誰かがその費用を負担しなければなりません。

若者の体を作ることは大切ですが、ほかのことにも予算は必要で、何を優先するかについて頭を抱えている自治体も多いようです。

保育園でも主食の用意や副食費の負担など、自治体によって違いがあります。

**■食育基本法や食育の取り組み**

食を大切にする問題の欠如、食の海外への依存、伝統ある食文化の喪失など、食に関する危機感が高まり2005年に食育基本法が施行されました。

保育所保育指針でも食育の推進が重要な項目にあげられています。

学校給食の問題点の一つに「残食の多さ」があるそうです。

そして不適切保育でよく報道されているのが嫌がる子に無理に食べさせること。

好き嫌いが多い、食べる量にムラがある、など食に関するお悩みはご家庭でも多いと思います。

無理強いはよくないけど、残すのはもったいないということを知らせたいという想いがあります。

また、子どもの気持ちを尊重すると本当に少量しか食べない現状もあり、子どもの成長にとってそれでいいのだろうか、と常に私達も葛藤しています。

給食のいいところは、みんなで同じものを食べ、その時間を共有できることかと考えています。

園のビュッフェでは食べる量を自分で決め、それを食べ切り満足感を味わう、ということを大切にしています。

そして、同じように大切にしているのは食べる楽しさ。

一緒に食べるとおいしいね、という人との関係性の部分も育んでいきたいと思っております。

本年の干支は「甲辰(きのえたつ)」。活力旺盛になり大きく成長し形が整う年といわれています。

よく食べ、よく遊び、よく眠り…と、子ども達が生き生きと活動できるようにしてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（飯塚）